

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2015.12.19)

河口無線で開催されたハーマンのマークレビンソンと JBL の試聴会に行ってきました。

<使用機材>

以下のようなラインアップで計画されていました。

スピーカー：JBL4367WX

プリメインアンプ：マークレビンソン No585

SACD プレイヤー：マークレビンソン No512



<試聴の経過>

試聴対象の JBL4367WX は今年の新製品、No585 は昨年の発売、No512 は発売中止ですが、他にハーマン扱いのプレイヤーがないので準備したとのことでした。

4367WX のポイントは、新しいタイプのコンプレッションドライバーを採用したこととウーファーのコーン紙の軽量化であるとのことでした。No585 は USB-DAC を内蔵し、デュアルモノ構成、デジタル入力系とアナログ入力系を 2 枚のボードに分けて相互干渉を避け、将来のグレードアップにも対応しているとのことでした。

女性ボーカル、ジャズボーカル、ジャズ、ソロピアノ、イーグルスと、ジャズコンボと続けて聴いていきましたが、新しいドライバーは透明度が高くすっきりと伸びやかな音が前に飛んでくる感じが好ましく感じられました。しかし、ウーファーはコーン紙の軽量化を図ったとのことでしたが、JBL 特有の低音の重さがあって、ホーンの音に比べ、遅れて音が到達するような印象を持ちました。また、ピアノの左手の音が重くて、アリコートの響きが伝わってこない感じがしました。

次に唯一のクラシックでチャイコフスキーのV協がかかりましたが、40KHzまで伸びているというスペック通り、音の分離も良く繊細なところまで表現できているように感じましたが、弦の柔らかさやウェット感がもう少し欲しい感じがしました。

この後、マイケルジャクソン、男性ボーカル、ジャズコンボなどが続き、ハーマン扱いのソロピアノのガラスCDがかけられ、ビッグバンドで締めくくられました。ガラスCDはさすがに透明度が高く、初めてピアノらしい音が聴けました。

総体としては、コンプレッションドライバーとホーンの設計は非常に良くできており、細かい音まで軽々と飛んでくる印象でしたが、ウーファーとの音質の繋がりに改善の余地があるように感じました。クラシックに関しては管球アンプと組み合わせるとどうなるか、興味のあるところです。

以上

以上